

# 再 評 価 対 象 ダ ム 事 業 概 要

平成21年3月6日  
河 川 部

# 中部地方整備局管内 ダム事業位置図



## 再評価対象ダム事業一覧表

事業名	事業進捗状況	社会経済情勢	費用対効果 B / C	再評価理由	対応方針 (原案)
三峰川 総合開発	美和ダムの恒久堆砂対策施設のうち、洪水バイパス（貯砂ダム・分派堰・洪水バイパストンネル）が平成17年に完成。戸草ダムの建設等は、平成15年度以降、整備を実施していない。	<p>災害発生時の影響 浸水想定区域内：面積約41,000ha 人口約91万人（H17国調）</p> <p>過去の災害実績 S36年6月洪水：浸水面積 5,507ha（全川） 被災家屋数 9,535戸（全川） S43年8月洪水：浸水面積 738ha（全川） 被災家屋数 2,565戸（全川） S58年9月洪水：浸水面積 2,034ha（全川） 被災家屋数 6,644戸（全川） H18年7月洪水：浸水面積 661ha（上流） 被災家屋数 2,935戸（上流）</p> <p>沿川の市町村や団体は、早期完成を要望。</p>	1. 3	再評価後、一定期間（5年）が経過している事業	継続
上矢作ダム	実施計画調査（ダムサイト地質調査・環境調査）実施中。	<p>災害発生時の影響 浸水想定区域内：面積約27,000ha 人口62.7万人（H17国調）</p> <p>過去の災害実績 S34年9月洪水：浸水面積 994ha（全川） 被災家屋数 23,444戸（全川） S36年6月洪水：浸水面積 5,709ha（全川） 被災家屋数 1,520戸（全川） S44年8月洪水：浸水面積 2,738ha（全川） 被災家屋数 628戸（全川） S47年7月洪水：浸水面積 3,004ha（全川） 被災家屋数 20,728戸（全川） H12年9月洪水：浸水面積 1,798ha（上流） 被災家屋数 2,801戸（上流）</p> <p>H12.9東海豪雨（恵南豪雨）による被害を受け、上矢作ダム建設の要望。</p>	—	再評価後、一定期間（5年）が経過している事業	継続

平成20年度 継続箇所 ダム事業の評価書

事業名	三峰川総合開発事業		
水系名・河川名	天竜川水系三峰川	事業主体	三峰川総合開発事務所
所在地	(美和ダム再開発) 左岸：長野県伊那市高遠町勝間 右岸：長野県伊那市長谷非持  (戸草ダム建設) 左岸：長野県伊那市長谷浦 右岸：長野県伊那市長谷杉島		
事業着手年度	平成元年度		
再評価実施理由	再評価実施後、一定期間（5年）が経過している事業		
全体事業費	1,080億円（昭和63年度価格）		
再評価の概要	1. 事業の必要性 (1) 事業の必要性等に関する視点 ・天竜川流域は現状においても治水安全度が低く、美和ダム機能の恒久的な維持のために必要な事業を進める必要がある。 ・沿川の市町村や団体から早期完成要望が出されている。  (2) 事業の投資効果 $B/C = 1.3$  2. 事業進捗の見込み ・美和ダム機能の恒久的な維持のために必要な事業は着実に進捗している。  3. コスト縮減の可能性・代替案の可能性 ・コスト縮減を考慮した湖内堆砂対策施設の設計を行い、工事の施工に際しても工法の工夫等によりコスト縮減に努める。 ・恒久堆砂対策は、代替案との比較で有利となっている。  ○対応方針 三峰川総合開発事業については継続するものの、美和ダム機能の恒久的な維持のための事業に限って進めることとし、戸草ダムの建設等については、現在、策定中の河川整備計画をもって対応する。		

平成20年度 継続箇所 ダム事業の評価書

事業名	上矢作ダム建設事業		
水系名・河川名	矢作川水系上村川	事業主体	豊橋河川事務所
所在地	左岸：岐阜県恵那市上矢作町字大倉 右岸：岐阜県恵那市上矢作町字高井戸		
事業着手年度	平成5年度（実施計画調査）		
再評価実施理由	再評価実施後、一定期間（5年）が経過している事業		
全体事業費	約1,000億円（平成4年度価格）		
再評価の概要	<p>○対応方針</p> <p>現在、実施計画調査中の上矢作ダムについては、当面の対応としては継続するものの、現在策定中の矢作川河川整備計画をもって対応する。</p>		